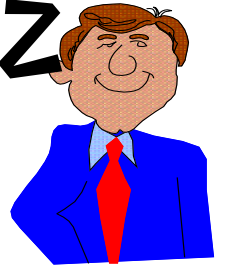


あむーる

島根県立松江北高等学校 14R 学級通信 第12号

No.12



Stay hungry, stay foolish!



～奇才スティーブ・ジョブズのこの言葉の意味を考える～

来年度発行の島根県『図書館ガイド』にあの奇才故スティーブ・ジョブズの書評を書くことになり、年末に彼の本をまとめて読んだ。彼は、2005年の6月に、スタンフォード大学の卒業式で行われたスピーチを「**Stay hungry, Stay foolish.**」という名言で締めくくった。これは、どういう意味か？翻訳を読むと、「ハングリーであれ。分別くさくなるな」というふうに訳されているが、いまいちよく分からない。

大事な点は、「Stay ～」と言っている点だ。私の大好きな『ロングマン英々辞典』では次のような定義である。To continue to be in a particular position, place, or state, without changing つまり、「(変わらずに)～のままであれ」(＝～であり続ける)ということになる。しかし大切な点は、その前提として、次のことが隠されている。

今は～である。がしかし、やがては～でなくなる。

つまり、前提として、次のことが含意されているのだ。「今は *hungry* で *foolish* だけど、このまま進むと必然的に、そうではなくなる。だからあえて、そうならないように、努力せよ！」もっとわかりやすく言えば、こうだ。「あなたたちはやがては、満ち足りて、賢明になるだろう。しかしそれではいけないのだ。今のひもじさと、今の馬鹿さ・愚かさを、失ってはならない。だって、それはとても大切なものなのだから」

ここまで言えば、ジョブズが何を言いたかったか、わかるだろう。こうだ。「若さを失うな」あるいはこうなる。「活力の源を失うな」もっと詳しく説明すれば、こうだ。「あなたたちは今は *hungry* で *foolish* だ。しかしやがては大人になり、満ち足りて、賢明になるだろう。そのことを自分の成長の証だと受け止めるかもしれない。しかし、そう思ったとき、あなたたちは成長を止める。成長を止めないためには、いつまでも若さを失ってはならない。いつまでも活力の源を失ってはならないのだ。そのためには、あの若いときの *hungry* で *foolish* な気持ちを忘れてはならない。あなたたちは今は *hungry* で *foolish* だ。それを残念に思うこともあるだろう。もっと成長したいと思うこともあるだろう。しかし、*hungry* で *foolish* だということ自体が、成長への意欲をもたらす。その気持ちを、いったん成長したら、見失いがちだ。しかし成長してからも、若いときのあの意欲・食欲さを忘れてはならない。そうすれば、人はいつまでも成長できるのだ」

hungry とか *foolish* とかの言葉が何を意味するかは、私たち一人一人が自分で考えるべきことだ。

これにつけて思い出されることがある。「みんな、自分が利口だと思っているから、ダメなんだ。自分はバカだと思っていれば、まわりのみんなが利口に見えてくる。そうすれば、いろんな知識を得たりできて勉強になるんだ」亡くなった漫画家赤塚不二夫さんはことあるごとにこう言っていたという。「トキワ荘」での下積み生活の間も、中卒という学歴や知識の無さなどさまざまなコンプレックスにさいなまれながらも、前向きに食欲に、知識や技を吸収して、売れっ子漫画家の階段を駆け上がっていった。

もう一度、革命者スティーブ・ジョブズのこの言葉の重みを噛みしめてみようではないか。

クレージーな人たちがいる
反逆者、厄介者と呼ばれる人たち
四角い穴に丸い杭を打ちこむように
物事をまるで違う目で見える人たち
彼らは規則を嫌う 彼らは現状を肯定しない
彼らの言葉に心をうたれる人がいる
反対する人も賞賛する人もけなす人もいる
しかし、彼らを見捨てることは誰にもできない
なぜなら、彼らは物事を変えたからだ
彼らは人間を前進させた
彼らはクレージーと言われるが、私たちは天才だと思う
自分が世界を変えられると本気で信じる人たちこそが



▲I-phoneのスティーブ・ジョブズ

本当に世界を変えているのだから

Think different.

ただ、評伝『スティーブ・ジョブズ I・II』（講談社）を読んで、この人の変人ぶりにはちょっと驚かされることも度々あった。部下は大変だったろうな…

先輩の言葉



大阪大学基礎工学部 飯島 優

14Rの皆さん

こんにちは、先日八幡先生から後輩たちにいろいろ伝えてほしい、ということで、お手紙を書かせていただきました。僕は、今から数年前に北高を卒業して、現在関西のとある大学に通っています。僕は3年間、卒業の間際まで八幡先生に鍛えていただきました。

皆さんはもうすぐ受験生というものになるとはと思いますが、とにかく勉強だけしていればいい、と思わないで欲しいのです。受け身な態度で勉強して、大学に入ることを目的にせず、自分のこれからを考えてみたら良いと思います。大学では高校までと違って、とても積極的な姿勢が求められます。自分がやりたいことを大学で見つけるためには、そんな姿勢が大切だと思います。そのためには、やはり持っている知識が多いに越したことがなく、今のうちに自分から積極的な姿勢で勉強したら良いと思います。例えば英語は、今は受験英語等々、とてもたいへんかと思いますが、大学に入って、ある分野の最新の情報を得るためにはやはり海外の記事や論文を読まねばならず、それらはもちろん英語です。大学では英語を学ぶというより使いこなすほうにシフトしていきます。これは英語だけではなく、ほかの科目にもいえます。数学は、今、僕は制御の勉強をしたりしているのですが、そのためのツールとなっています。

この機会になぜ今自分が勉強しているのかをぜひ考えてみてください。拙い文章で申し訳ありません。皆さんのご多幸をお祈りいたします。

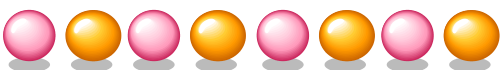
◎飯島君は理数科を卒業後、大阪大学に進み、サークル活動でオーケストラに所属し、活発に活動し、昨年から今年にかけて、コンサートマスターを務めている。いつもコンサートに招待してもらっているが、忙しさにかまけて、まだ行けないでいる。(ハ)

田尻悟郎「Rの法則」

田尻悟郎先生の「Rの法則」(NHK Eテレビ)をご覧いただいた人も多いだろう。みなさんに観るようにお勧めしたがどうだったろう？八幡が薦めた意味がわかりになっただろうか？この番組の中で、彼は2週にわたって、「イコールの法則」「いる・あるの法則」「するの法則」「振り出しに戻るの法則」「toの法則」の5つを取り上げた。いずれも中学校の基礎的な部分だが、ここがぐらぐらしていると高校でも伸びることはない。彼が、島根中学、松江一中、比田中、東出雲中と、中学校で徹底的に鍛え上げた根幹をなす法則だ。見逃した人は、現在NHKのホームページに、その概要がまとめられているので、ぜひ見られたい。アドレスは次の通り。

NHKホームページ <http://www.nhk.or.jp/rhousoku>

また、この5つの法則が、携帯の「待ち受け画像」にダウンロードできるようになっているので(QRコード)、利用してもらいたい。英作文の「語順」の基本はこの5つの法則に集約されている。



「19の頃」

お正月にテレビを観ていたら、JRAのコマーシャルに小田和正の「19の頃」が流れていた。これは彼の最高傑作アルバム『個人主義』の一曲で、サビの部分がとても印象的な曲。そのサビの部分を使ったCMだ。きっと、JRAの担当者が小田さんの熱狂的なファンなのだと思う。この曲のサビの詩が(太字部分)受験生にピッタリなので、八のホームページでも紹介したら、すごい人気でビックリした。やはりいいものはいい。どうやったらこんな曲が書ける？65歳のじじいの小田さんが作詞・作曲だけでなく、編曲・コーラスワークまでやっちゃう所がすごい。

19の頃

作詩・作曲・編曲 小田和正



19の頃 僕は 見つめてた
遥かな世界を 海の彼方を
聞こえて来る音に 恋をした
それが僕には 愛だった

ずっとずっと 憧れていた
心も からだも 奪われて
ずっとずっと 追いかけていた
果たせぬ恋とは
知るすべもないまま

でももう ここからは
追いかけない
夢見た世界に 今 別れを告げる

今 僕には 何が見える
失くしたものは 見えているか
あの空へと続く 白い道が
今は 鮮やかに 見えているか

ずっとずっと 憧れていた
心も からだも 奪われて
ずっとずっと 追いかけていた
果たせぬ恋とは
知るすべもないまま

遅すぎた 目覚めは 冷たい朝
新しい恋に
また 会えるその日まで

19の頃 僕は 見つめてた
遥かな世界を 海の彼方を
その時から恋は 始まった
今 その恋は 海に浮かぶ

この道を今 行くほかはない
自分の場所へ たどり着くためには

自分の声で 自分の言葉で
君の心に 届くその時まで

19の自分に 別れを告げて
もう一度ここから また歩き始める

この道を今 行くほかはない
自分の場所へ たどり着くためには



●『笑う避難所』(集英社新書) → コノ本お薦めデス！

さだまさしさんに薦められて読んだこの本。石巻・明友館という支援する避難所136人の記録である。正直こんな避難所があったなんて知らなかった。公の支援が届かない避難所が奇跡の避難所となる。涙なしでは読めなかった。自分にもできる支援を続けたいと思った。あの震災を決して忘れてはならない。

●石渡嶺司・山内太地『アホ大学のバカ学生』(光文社新書)

タイトルは刺激的だが、内容はいたってまとも。今の大学生の裏事情を徹底して取材した記録。およそ大学とは呼べない大学が存在する。

●川北義則『つまらない大人にはなるな！』(PHP文庫)

ブレないオレ流の生き方を述べた本で参考になる。頭のやわらかい人とは、①視野が広い、②想像力が豊かである、③偏見がない、④常識にこだわらない、⑤好奇心が旺盛である、の五つの要素を持った人だ、と著者は言う。そんな柔らかい頭の例として著者が引いている例が傑作である。「あるアフリカの草原での話。全裸の男達を何頭かの象が見ていた。そしてある象が男たちの股間を見ながら言った。『あんなんで、よく水が飲めるな』…」(立川談志)「世界の火事の被害額の問題です。原因で一番多いのは？」「うん、それは戦争でしょう」(伊丹十三)

●渡部昇一『松下幸之助成功の秘伝75』(致知出版)

経営の神様松下幸之助の生き方が大好きで、八幡家の家電は全てパナソニックで統一されている。尊敬する渡部先生が、そんな「哲学者としての幸之助」の生き方をまとめた新著。今でも彼の言葉は全てが通用するから重みがある。私の一番好きな言葉は「雨が降れば傘をさす」だ。当たり前のことを当たり前にする。

●小松達也『英語で話すヒント～通訳者が教える上達法』(岩波新書)

アポロが月面着陸した時、衛星中継の同時通訳をしていたのがこの人。僕らの世代にとっては神様のような人だ。その著者が「使える英語」を身につけるために、具体的なアドバイスをしてくれる。これは英語好きの人には本当に参考になる一冊だ。

●野村克也『弱者の兵法』(アスペクト文庫)

単行本で出たときに読み、今回文庫になってまた再読。「人は無視・賞賛・非難の段階で試される」「人間の成長なくして技術的成長なし」「進むときは上を向き、暮らすときは下を向く」「人間学なき指導者はリーダーの資格なし」こうした野村語録を読むだけでも勉強になるが、彼の哲学は奥が深い。弱い者が強い者を倒すには、何が求められるのか？教員だけでなく、生徒諸君にも読んでもらいたい名著だ。

●綾辻行人『奇面館の殺人』(講談社ノベルス)

ご存じ館シリーズの第9作目。デビュー作『十角館の殺人』は衝撃的だった。これぞ本格派の推理小説で、エラリー・クイーンばりの謎解きに専念した力作だった。以来、作を重ねて9作目。相変わらず「フーダニット」の要素が色濃く、ぐいぐい読者を引き込んでいく筆力はさすがである。彼の作品は全部図書館に収めてあるので、ぜひ挑戦してみられたい。

●西村京太郎『寝台特急「サンライズ出雲」の殺意』(新潮社)

久々に出雲にゆかりの特急列車が舞台なので(「スーパー隠岐」以来)、特に興味深かった。中毒と化していて、彼の作品は全部読む。ベッドの中に持って入る睡眠薬代わりをしているのが西村作品だ。毎月数冊の新刊が読めるので、寝るのに当分苦労はなさそうだ。最近読んだのは『寝台特急8分停車』(徳間文庫)『仙台青葉の殺意』(角川文庫)『西武新宿線の死角』(ジョイ・ノベルス)『怒りの北陸本線』(徳間新書)。

●デイビッド・セイン『英語足を引っ張る9つの習慣』(青春新書)

『おつかれさまを英語で言いたくないですか』(東京書籍)

この著者の本は、「英語の語感」を磨くために全部読む。読むと必ず収穫がある。日本在住25年で、日本語にも堪能なネイティブならではの観察が鋭い。



八幡先生読書日記

→八幡先生のホームページ：<http://teamhacchan.wordpress.com/>